

## 第6学年 体育科学習指導案

児童 男13名 女8名 計21名  
指導者 大野 誠

### 1 単元名 ソフトバレーボール（E ボール運動）

#### 2 教材について

##### (1) 単元について

学習指導要領では、「E ボール運動」について、「(1)チームに適した課題をもって次の（バスケットボール、サッカー、ソフトボールまたはソフトバレーボール）運動を行い、その技能を身に付け、簡単な作戦を生かしてゲームができるようにする。（技能の内容）」、「(2)互いに協力し、役割を分担して練習やゲームができるようにする。また、勝敗に対して正しい態度がとれるようにする。（態度の内容）」、「自分のチームの特徴に応じた作戦を立てたり、ルールを工夫したりすることができるようにする。（学び方の内容）」の3点の内容が位置づけられている。つまり、ボール運動では、チームに適した課題を設定し、その課題解決に向けてチームの特徴を生かした学び方を工夫し、友達との好ましい関わりのなかで技能を高めながらルールや作戦を生かしてゲームができるようになることを目指した授業内容を構成していくことが求められる。

ソフトバレーボールは、ネットをはさんで2つのチームが対峙し、ボールを手や腕で打ち合い、相手コートにボールを落とすことにより得点を競い合う運動である。また、ラリーが続くことにその楽しさがあり、ラリーの攻防がこの種目の魅力でもある。高学年のボール運動は、サッカー型やバスケットボール型が中心に行われる傾向にある。しかし、こうした種目を日常的に継続して取り組んでいる子どもが増えてきたために、技能の差が大きく開くことも少なくない。反面、ソフトバレーボールは未経験の子どもが多いことから技能の差もあまりなく、同じレベルで課題意識をもって学習が展開できるものと考えた。また、プレー時に相手との直接的な身体接触がないこと、ボールが大きく柔らかいことなどから、守備や攻撃に対して恐怖感や抵抗感がなく、誰もがボールに触れる機会が多くなりチームに貢献できることも考えられる。そのため、運動に対する目的意識や課題を共有しやすく、またチームの作戦や練習の方法などを仲間とともに考え、試行錯誤しながら活動することで、一体感を味わいながらともにできる喜びや運動する楽しさを味わわせることが可能な教材であると考え、本単元を設定した。

##### (2) 児童について

体育に関する事前の調査において、体育の学習が好きであると答えた児童は85%であり、多くの子どもが意欲的に学習に参加している様子が見られる。ボール運動については75%の子どもが好きであるとしている。しかし、苦手としている子どもが数名おり、その理由として「ボールに触ることができない」「うまくボールを扱えない」など、基本的な技能に関する内容を挙げていた。このことから、状況に応じてボールを意図的に扱うといった技能が身につくれば、ボールに触れる機会も多くなり、積極的にゲームにも関わっていきけるようになると考えられる。

今後やってみたいボール運動として「ソフトバレーボール」を選択した子どもが6名いたが、これはボール運動を苦手とした子どもが選択する傾向が大きかった。このことから、初めて取り組むソフトバレーボールへの期待が大きいことがわかる。つまり、苦手意識のある子どもも、ボールに関わったりゲームで活躍したりする機会を増やしたいと願っているものと考えられる。また、どのような学習をしたいかについては、「友達同士の教え合い」「競い合い」「話し合い」などを挙げており、友達との関わりの中で技能を伸ばしたいと願っている傾向が認められた。

子ども達はこれまでも体育授業の中で「教え合い」の場面を経験する中で、技能面を高めるためのポイントに沿った相互評価をし合いながら、アドバイスを自分の練習に取り入れるといった学習を進めてきた。そのなかで、できることの喜びや共に技を高めていくことの楽しさを実感できてきている。しかし、ボール運動での「教え合い」は初めての経験であり、ボール運動のもつ「対戦型」の学びの特徴を生かし、個々にもっている技を教え合うだけでなく、チームでの作戦を話し合っチームプレーとしての技の高まりを

目指した学び合いの場面を授業の中に取り入れることが可能であると考える。

### (3) 指導について

以上をふまえ、本単元では以下の3点を指導の重点とする。

技能面の指導のポイントを重点化し、ポイントに沿った練習を継続できるようにする。  
教え合いを練習に生かすことのできる学習環境を整備する。また、ゲームから実践を振り返り、次の練習の課題を求める場面を設定する。  
子どもの実態と学習内容を考慮し、ルールや場を弾力的に設定する。

については、指導の重点をラリーが続くことに置き、そのためにねらったところへボールを返すための「オーバーハンド」「アンダーハンド」の2種類の受け方(手の形、ボールを受ける位置、角度)を示し、毎時間のドリルゲームやチーム練習で確かめるようにする。また、ラリーに必要な技能として示したポイントは、友達同士の教え合いの視点として、互いの動作の確認やアドバイスの重点とする。

については、1チーム3名による8チームを編成する。チームが少数であることによって、ボールに触れる機会や、チームの作戦に関わる責任を背負う割合も多くなると予想される。また、少数による意見交換が重視され、友達同士の教え合いも活発になってくることが考えられる。そこで、チーム練習の時間を保障し、教え合いを練習に生かすことで動きを学び合わせる。また、チームの課題に基づいて練習した成果をゲームで具現化し、それを自己評価および他のチームからの評価によって振り返り、次に求められるチームの動きを探りながら発展的にチームの課題解決を目指したい。そのために、2チームを兄弟チームとしてペアを編成した親チームを組織する。兄弟チームでの話し合いの場を設定することで、ゲームでの動きや作戦の様子を客観的に評価し合い、兄弟チームの意見をもとに次の練習課題を見出し、練習内容を検討して次に生かすということも試みたい。また、兄弟チームによる教え合い、励まし合いによって活動への意欲が喚起され、主体的な学習へとつながるものと考えられる。

については、できる喜びやチームによる運動の楽しさをより多くの児童にもたせるための配慮である。児童が身につけるべき基本的な技能の達成のために、めあて1の学習活動として行う練習やためしのゲームを重ねる中で、子どもと話し合いながらルールを決定し、弾力的に適用していく。また、コートの大ささやネットの高さなども配慮して、子どもがボールを扱いやすく動きやすい場を保障したいと考える。

## 3 単元の目標

- (1) ソフトバレーボールの楽しさやできる喜びを求めて進んで取り組もうとするとともに、友達同士、相互に教え合い、よさを学び合いながら、安全に留意して練習することができる。(関心・意欲・態度)
- (2) 仲間と情報交換する中で、自分やチームの課題を見つけ、必要な練習を工夫して取り組むことができる。とともに、自分の意見や気持ちを伝えながら練習したりゲームしたりすることができる。(思考・判断)
- (3) 作戦や状況に応じてボールを片手や両手で操作して、意図的に味方につなげたり、相手コートに返したりすることができる。(技能)

## 4 指導計画と評価規準

### (1) 単元の評価規準

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
ソフトバレーボールの楽しさやできたときの喜びを求め、進んで運動に取り組もうとする。 仲間と協力して活動し、教え合ったり、よさを学び合ったりしながら、お互い技能を高めようとする。 場の安全を確かめて、きまりを守って運動しようとする。	チームの特徴や課題を見つけ、練習を工夫して取り組んでいる。 チームの作戦を考え、それを成功させるための方法を話し合い、ゲームに生かしている。 人数やコートの大ささなど、ルールを生かしてゲームを行っている。	ボールを両手や片手で操作し、ラリーを続けることができる。 相手コートを見ながら空いているところにボールを落とすなど、状況に応じた技能を生かしてゲームができる。

(2) 単元計画

時	1	2	3	4	5	6 (本時)	7	8
学習内容	めあての設定とチーム作り	【めあて1】 ボールに慣れ, いろいろなボールの返し方ができるようになるう。			【めあて2】 チームの特ちょうを生かして作戦を工夫し, いろいろなチームと対戦しよう。			ソフトバレーボール大会をしよう
5	オリエンテーション	準備運動・ドリルゲーム						準備運動
10		ドリルの成果の発表・めあて確認						ドリルゲーム
15	チーム決め	ボールつなぎの練習 (基本のパス練習)			・作戦の話し合い ・チームの練習			作戦タイム
20	準備運動	成果の確認, 練習内容の話し合い			ゲーム			ゲーム
25	体ほぐし (ボールを使って)	ためしのゲーム			ゲーム			作戦タイム
30								
35	ラリーの練習	情報交換・ルールづくり			結果の記録と情報交換			ゲーム
40								
45	次時の予告	まとめ, 次時の予告						まとめ
評価規準	【関】 【思】	【関】 【思】 【技】			【関】 【思】 【技】			【関】 【思】 【技】

5 本時の指導

(1) 目標

- ・教え合いや学び合いを積極的にしながら, 技能を高めようとする。(関心・意欲・態度)
- ・チームの課題を見つけ, 練習の仕方を工夫して作戦に生かしている。(思考・判断)
- ・状況に応じて, ボールを片手や両手で操作して味方につなげたり相手コートに返したりすることができる。(技能)

(2) 展開

	学習内容と活動	支援(・) と 評価( )
導入 10分	1 あいさつ 2 準備運動 ・係による基本的な準備運動 3 ドリルゲーム ・親チームによるラリーゲーム ・ドリルの成果の発表	・基礎感覚につながる運動を取り入れる。  ・うまくいったことや, 発見のあったことを聞き, 全体に紹介し称賛する。 ・アドバイスをもらったり, 励まされたりしてラリーの回数が増えているチームを紹介する。その時にどんな言葉をかけられたか, また, かけられたときどんな気持ちだったかを聞くことで, 言葉のやりとりの大切さと学習効果の向上について助言する。
	4 本時のめあての確認	
	作戦を成功させるように, チームの練習を工夫してゲームにつなげよう。	
	5 チームの練習 ・練習内容の話し合い  ・課題に沿った練習	・前時の様子を振り返らせて, 本時の作戦と練習内容を親チームや兄弟チームごとに話し合わせる。 ・練習の仕方に悩んでいるチームには, チームの課題を考

展 開	<p>・練習の振り返り</p> <p>6 対戦型ゲーム(1チーム5分)          ルールの例          ・サーブは交互に行う。          ・ワンバウンドあり。          ・一人2回連続して打っても認める。          ・5回で相手コートに返す。          ・チーム全員にパスが繋がったら1点とする。 など</p>	<p>えさせたくうえで、練習方法の例を示した掲示資料を効果的に活用できるように助言する。</p> <p>・教え合いが練習に生かされているチームを称賛する。          チームの特徴や課題を考えて、内容を工夫して練習しているか。(観察・作戦カード)          教え合ったりよさを学び合ったりしながら、技能を高めようとしているか。(観察)</p> <p>・練習を振り返らせ、試合に向けた作戦を見直しさせる。</p>
	<p>7 結果の記録と反省、情報交換          ・兄弟チームによる反省と親チーム内での情報交流</p> <p>25分          ・発表</p>	<p>・ルールを全体で確認させる。</p> <p>・係の仕事(審判・記録)に対して責任をもって臨むように助言する。</p> <p>・うまいプレー、励まし合いや相手を思いやる言葉かけはかさず称賛する。          ルールを守ったり、役割を果たしたりして、望ましい態度でゲームに参加しているか。(観察)          チーム内で励まし合ったり、アドバイスしたりしながらゲームに参加しているか(観察)          状況に応じてねらったところにボールを返すことができているか。(観察)</p> <p>・ゲームを振り返らせ、次に必要な練習を話し合わせる。</p> <p>・親チームの交流を行い、互いのチームを評価し合わせる。また、反省に基づいて次への課題を明らかにさせる。          話し合いに積極的に参加し、自分の意見を話すことができているか。(観察)</p> <p>・各班の話し合いの結果を発表させる。また、作戦がうまくいったチームを紹介し、他チームへよさを広める。</p>
まとめ	<p>8 整理運動</p> <p>9 学習の反省          ・学習カードによる自己評価</p>	<p>・教師の主導で手首、足首、指先を中心とした運動を進める。</p> <p>・学習の様子を自己評価させる。</p> <p>・本時の学習から、よい点をクラス全体で認め合い、称賛する。</p>
10分	<p>10 次時の予告</p> <p>11 あいさつ・後片付け</p>	<p>・反省したことを次の練習につなげられるように助言する。</p>

### (3) 評価

評価の観点	評価規準	努力を要する児童への手立て
関心 意欲 態度	友達と協力して活動し、教え合ったり、励まし合ったりしながら進んで運動している。	練習をする際の自分のねらいを明確にさせて、目的意識をもたせて練習に取り組ませる。また、チームでの自分の役割を考えさせる。
思考 判断	教師や友だちの意見を参考にしながら練習に生かしたり、作戦を考えたりして活動している。	チームに貢献するための自分の課題を考えさせ、できるための練習を友達に協力してもらいながら進めさせる。
技能	状況に応じて両手や片手でボールを操作し、思うところをねらってボールを打つことができる。	ルールの特性を生かし、ワンバウンドからボールを両手や片手で打ち返すことを試させながらボールに慣れさせる。